

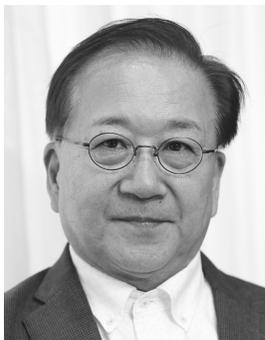
◆経済倶楽部講演会第4450回（3月31日）

関東大震災から100年 —首都圏の地下に潜む危機

静岡県立大学客員教授、東海大学客員教授

長尾 年 恭

- * 2月のトルコ・シリア地震について
- * 地震予知のM8アルゴリズムとは
- * 日本の歴史では地震による死者が最大
- * 次は巨大というスーパーサイクル地震説
- * 日本での生活、経済への影響度は
- * 2030年代半ば以降は要注意
- * 住宅など対策のポイント
- * 地下気象の最新データ
- * 地下ガスという火災の元凶
- * 噴火は富士山に加え伊豆大島の可能性も



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

今日は、何回もお見えになっておられますので改めてご紹介の必要もないかもしれませんが、長尾先生においでいただきました。いつもは9月の関東大震災の頃にやっているんですけども、今日は大地震から100年ということで3月最終日にお招きいたしました。

先生は東海大学の地震予知研究センターのほうにおられました。今、静岡県立大学客員教授をされておられます。東海大学にもまだ関わっておられるようですが、地震予知につまみしても少しずつ人口に膾炙するようになってまいりました。前回、北海道のほうが危なくなっているというお話で、日本全国では地震はあまり多くない何年間でしたけれども、北海

道ではおっしゃるようになっていくつかありまして、これから地震をどういうふうに考えたいのか。今日は参加者も増えているようですので、先生から貴重なお話をいただけるとと思います。それではよろしくお願いいたします。

2月のトルコ・シリア地震について

長尾 いつもは地震予知の話が中心ですが、今年は何を変えまして、関東大震災から100年ということをお話をしたいと思えます。実は一昨年ぐらいから最後の直下型地震、1855年の安政の江戸地震と関東大震災とはほぼ同じ場所から出火していることがわかってきており、その話を後半いたします。

それでは始めさせていただきます。ただいま